

平成 26 年 9 月 17 日

「学びやすい学校の環境づくり」の今後の方向性について

～ 総合計画キャラバンにおける意見交換を受けて～

尼 崎 市

1. はじめに

市民の皆さまと現状や課題を共有し、今後の方向性をともに考えながら、総合計画に掲げる「人が育ち、互いに支えあうまち」の実現に向けた政策形成を進めるため、ワークショップ形式による意見交換を行いました。

今回は「学びやすい学校の環境づくり」をテーマとし、具体的には、市民や市議会から多くの要望を受けている「学習環境の整備（小・中学校の空調整備・中学校給食）」、「子どもの生きる力や学力向上」について、5月から8月にかけて計6回、保護者、学校関係者、市民、中学生の皆さんを対象に実施しました。

この取組における市民の皆様からのご意見やご提案、それらを踏まえた現時点の市の考え方についてお示しします。

2. 意見交換の概要

（１）日程・対象等

回	日程	時間	対象	場所	参加者数	延べ意見数
1	5月28日（水）	13時	小・中学校 PTA	市政情報センター	40名	407件
2	6月30日（月）	10時	小・中学校長	教育総合センター	19名	321件
3	7月11日（金）	18時半	昼間参加しにくい 小・中学校保護者	小田支所	18名	220件
4	7月30日（水）	18時半	一般市民	小田公民館	34名	583件
5	8月2日（土）	10時	一般市民	テレビエ	26名	465件
6	8月7日（木）	13時	中学生 中学校教諭	教育総合センター	59名 19名	1,067件 285件
計					215名	3,348件

1 各回とも約2時間。3・4・5回目は参加者を公募

2 ファシリテーター：川中大輔氏（シチズンシップ共育企画代表）

アドバイザー：八木絵香氏（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）

3 「延べ意見数」は、グループ内で意見交換した際に模造紙に書いた意見、各参加者が意見交換を受けてメモ用紙に書いた意見を集計したものです

（２）市側の出席者 市長、教育長、関係職員

（３）意見交換の主旨

学校教育の充実、現役世代の定住転入を進める本市にとって最重要課題の一つです。中でも非常に大きな財源を伴い、近隣他都市でも導入が進む空調整備と中学校給食は、市民からの要望も強く、中学校給食の導入については市議会でも陳情が採択されました。

本市としても、空調整備については、暑さによる学習や健康への懸念や整備済みと未整備の学校の不公平感があること、一方、中学校給食については、栄養面の充実や子育て支

援の観点、導入都市の増加などから、両方とも取り組まねばならない重要な課題と認識しています。

しかし、空調整備、中学校給食ともに多額の初期投資や維持経費が必要です。現在の非常に厳しい本市財政状況の中で、両方を一気に進めることは、難しいと判断せざるを得ません。

市民の皆様の中には、本当に多様な価値観、課題やニーズがあります。これら多額の財源を要する施策を進めるには他の施策の予算を見直す必要も出てくるため、空調整備や中学校給食によって達成したいことの本質や重視すべき点は何か、財源確保を含め様々な課題がある中でどのような工夫や次善策があるのかなどを参加者の皆さんとともに考え、練り上げた上で、市民全体へ説明責任を果たし共感や理解を得ることが重要であると考え、今回の意見交換に臨みました。

(4) 主な意見

空調整備について

		メリット	意見・課題・解決案
(全 回 共 通) 主 な 意 見 そ の 他 の 意 見		・集中力アップ、学力向上 ・体調管理(熱中症、あせも等) ・不公平感の解消(学校格差)	・集中力を上げ全国学力テストの差の縮小を ・アトピー性皮膚炎の夏場の苦痛を考えて ・空調整備の費用が多額 ・耐震化工事と同時施工で合理的に。壁面緑化等との併用
	P T A	・弁当が傷む心配がなくなる ・服装の乱れがなくなる ・窓からの雑音が減る	・今の子どもの体温調整能力は低い ・温度設定を高め、各室温度調節機能などの配慮 ・弁当は親が努力できるが、空調は行政にお願いするしか手立てが無い ・給食コースは個人差大、まず全体効果のある空調を
	保 護 者	・夏休みに授業ができるので授業日数の補填が可能になる ・PM2.5対策 ・昼食の食欲アップ	・インフルエンザ等の学級閉鎖分を夏休み期間に補える ・財政難による空調か給食かの選択は納得いかない。 ・財政すべての見直しを進めるべき ・制服(特に女子)は調整しにくい
	学 校 関 係 者	・生徒が集中、授業がしやすく ・生徒が落ち着き、生徒指導(服装みだれ)の減、教材研究の時間確保の増 ・夏休みの補習が可能 ・学校から出る騒音対策 ・教師の集中力維持	・汗でテストの解答用紙が波打ち破れる現状がある ・廊下側の扉や窓が閉め切られ、中の様子が見にくくなる ・休み時間など空調の効いた室内にこもってしまう ・エアコン導入に伴い教室を地域学習センターとして開放可能
	中 学 生	・下敷きをパタパタせず済む ・服装の乱れがなくなる ・扇風機と違い紙が飛ばない ・学校が嫌でなくなる	・温度設定、ひざ掛け利用など自分達でルールづくり ・ベルマークを集めて財源の一部に(給食も) ・居眠りやいたずらがあれば停止する ・地球温暖化に影響する
	一 般	・教員の集中力アップ ・夏休み授業の実施 ・食欲も向上する ・子育て世帯の流出抑制	・夏休みを短縮し補習や自習室開放を ・制服を暑さ緩和の私服に、冷え対策着を認める ・リースを用いた費用平準化を ・義務教育であり国が支援を充実すべき(空調・給食)

1 上記の、「PTA」とは第1回、「保護者」は第3回、「学校関係者」は第2回と第6回(教諭)、「中学生」は第6回、「一般」は第4回と第5回の意見交換で出された意見等

2 意見の詳細は各回、参加者意見(概要)にまとめている

中学校給食について

		メリット	意見・課題・解決案
(全回共通) 主な意見		・栄養バランスの取れた食事 ・保護者の負担軽減 ・同じものを食べる安心感（弁当を持参できない子も）	・食べる量は個人差が大きい ・親子のコミュニケーションの希薄化、月に何度か弁当日の設定 ・給食費未納対策、給食費高額 ・給食配膳時間の確保で昼食・昼休み時間が短縮 ・アレルギーへの対応のため給食か弁当の選択性を ・財源の問題。今の弁当事業の改善（当日予約等）
その他の意見	P T A	・好き嫌いを減らせる（弁当は好きな品だけ） ・子どもの荷物が減る ・弁当が傷む心配がない ・現金持参のトラブル減少	・配膳指導より学習・学級指導に力を入れて欲しい ・愛情こもった弁当はお金で買えない ・給食は空調後に財政状況を見ながら進めるべき
	保護者	・温かい食事が摂れる ・家庭の事情で弁当を持参できない子への対応が可能 ・弁当の中身が他人と違う等いじめにつながる心配が無くなる	・共働きが当たり前の時代に親の手間を考えるべき ・食は命に関わるので公的責任を持って進めるべき。給食かエアコンかの選択の問題ではない ・家族の分も作るので経済的な面で弁当のよさもある ・自校調理方式にし、民営化はすべきでない
	学校関係者	・生徒の昼食の心配が減る ・生徒と同じものを一緒に食べることで共通の話題も広がる ・教師も時間の余裕ができる	・給食費の未納問題 ・食物アレルギーへの対応 ・給食指導の負担増 ・子どものためにも弁当の方が望ましい ・給食室や配膳室の場所の確保
	中学生	・協力して配膳、残さず食べるなど責任感や連帯感がわく ・温かい食事が摂れる ・献立が楽しみの一つになる ・初めての人との話題になる	・食べる量に個人差、違う量で同じ費用は不公平 ・サイズの設定、グラムで値段を決める ・異物混入、いたずら ・自分のものは自分で盛る・見守る ・愛情弁当は親とのコミュニケーション ・今日の給食の話で親との会話は膨らむ ・広い「ラウンド」やゆとりある教室のため、これらを犠牲にしての給食室は難しい
	一般	・子育て世代の流出抑制 ・弁当を隠して食べる思春期心理へ対応できる ・家庭の事情で偏った栄養を摂る生徒の命を救う	・提供方式にこだわるべき（自校調理方式） ・小学校で作り中学校に運ぶ、統廃合校跡に給食センター ・弁当は親の愛情・責任、親子をつなぐ大切な要素、自分の子どものことを行政まかせていいのか。 ・給食のある都市の親は愛情が無いのか ・弁当は好きなものしか入れないなどの課題もあり ・未納対策など公平な負担を徹底すべき

【中学生】



子どもの生きる力や学力向上について

		項目	意見・課題・解決案
その他の意見	(全回共通) 主な意見	・先生の質の向上 ・先生の人数、配置 ・受験・進路指導 ・施設、備品の老朽化対策 ・トイレの改善	・若い先生のコミュニケーション力の向上、講習会、指導教員の増員 ・先生の事務量軽減、子どもと向き合う時間の確保、ADHD 対応教員の加配 ・自分で自らの人生を決めていける力を ・廊下や窓、机や椅子、遊具など ・美装化、洋式化を
	PTA	・授業 ・マナーやルール ・情報開示 ・部活動 ・クラスの数 ・施設利用、開放	・楽しく、分かりやすい授業、土曜日授業 ・マナーの向上を授業の1つに入れる ・情報開示の方法（HP など）、更新が少ない学校もある ・部活数の強化や充実、外部顧問の活用 ・少人数クラスや習熟度対応できるような取組を ・学校施設（教室を含めた）開放、土日も利用可能な仕組み
	保護者	・教育環境の充実 ・児童ホームの定員増、民営化	・教師、児童ホーム教員、保育士、給食職員などの増員 ・満員で入所できない
	学校関係者	・学校・PTA・地域交流 ・情報系教材	・地域、保護者も一緒に学び合い教え合う、協力や活躍できる場所があれば ・電子黒板、大型モニター、タブレット活用による全体でやりとりを共有できる双方向授業を
	中学生	・授業や校外学習の充実 ・クラブ活動の種類の増加 ・設備、施設の老朽化対策 ・プールや更衣室の充実	・生徒同士で意見交換や発表する機会を増やす ・授業内で予習や復習をする時間の確保 ・校外学習、社会見学、地域で活動する時間の増を ・教科書、参考書、ノートは大型化しているので机を広く ・夏場の水分補給は水筒だけでは足りないの冷水機を
	一般	・先生の負担軽減 ・財源工夫、投資優先度	・子どもと充分向き合える時間の確保 ・親からの苦情対応が大変。親は権利ばかりを主張せず義務を果たすべき ・先生をサポートするシニア世代の有償ボランティアの活用を ・子育てしやすいまちづくりに、税収増への取組を ・子どもへお金をかけるべき、大人はもっと我慢を

〔参考〕空調整備と中学校給食の優先順について

PTAや学校関係者（第1・2回と第6回）では、ほとんどの方が空調を優先、保護者（第3回）では、5割の方が空調を優先、2割が給食を優先で、2割が同時に導入すべきとの意見でした。一般（第4・5回）では、2割が給食を優先、1割半が空調を優先、1割半が同時で、残り5割の方は示されませんでした。また、中学生（第6回）では、3割が空調を優先、残り7割の方は示されませんでした。第4回以降は、3回目までに出了た多くの論点を情報共有した上で、課題への対応策などについて、視点や考えを深めていくプログラムとするなど少し進め方を変更しました。

3. 今回の意見交換を受けての考え方、及び今後の方向性

(1) 空調整備と中学校給食について

今回の意見交換に際し、議論のたたき台として、空調整備の有無による学校間格差があること、中学校給食の実施については、財源確保や実施手法の検討に時間を要することから、まず空調整備を進めることをお示しました。意見交換では、多くの方が空調整備を優先という意見でしたが、「いずれも大切なので同時に実施すべき」や「給食を先に」との意見も少なからずありました。

本市としては、空調について「導入によって児童・生徒や教師の双方の集中力が維持でき、学力向上への取組を促進できる」「昨今の猛暑による室温上昇は集中力の低下や授業に対する姿勢、服装の乱れなどへの影響が大きい」「学校間の格差解消」「耐震化工事と合わせた工事によるコスト減」などの意見を踏まえ、すべての空調未設置校への整備に向けた準備や整備工事をすみやかに行うこととします。

学校耐震化による改築校など工事とあわせて実施できるものは今年度から、その他の学校については、実施手法やスケジュールを早急に検討しできる限り早期の着手に向け準備を進めます。

一方、給食については、「成長期の中学生にとって健康の保持・増進には、家庭環境に関わらず、栄養バランスに配慮した食事を摂ることが重要である」「共働き世帯が増加している現状では親の負担軽減を考えるべき」など、改めてニーズが高いことを認識しました。一方で、食物アレルギーへの対応、食べる量の個人差、親子のコミュニケーションの希薄化、給食費滞納対策、給食費負担、生徒指導の増加、配膳時間の確保による授業・放課後時間への影響などの導入に向けた課題も数多く出されました。

これらを踏まえ、中学校給食については、導入を進めることを前提に、まず、今回の意見交換での課題を踏まえて本市での課題整理や他自治体への事前調査などを進めます。その後、会議体を立ち上げ、実施方式や学校運営上の課題などの検討を進めていくとともに、財源確保の状況も踏まえる中で、空調整備の実施後、速やかに着手できるよう準備を進めます。

なお、これらの導入には多額の財源が必要となるため、行財政改革計画「あまがさき『未来へつなぐ』プロジェクト」で定めた将来負担と公債費の抑制といった財政規律の観点や他の投資事業との関連も踏まえ、詳細な投資額や経常経費などについて、より具体的な検討・調整を進めます。

(2) 生きる力や学力向上について

空調整備や中学校給食を含めて、市民の皆さんが教育に対して大きな期待をされていることを再認識できました。多くの方からいただいた多様なご意見を踏まえ、幅広い観点から教育

についての施策を進めていきます。

子どもの生きる力や学力向上については、今後も分かりやすい授業を実施するため教師の指導力を向上させるとともに、宿題の出し方を工夫するなど家庭における予習・復習を含めた学習習慣の確立に努めます。また、平成 27 年度入試から実施される学区拡大に向けて、それぞれの生徒が「行きたい学校」等への希望が実現できるよう、学力向上はより一層必要であると考えています。さらに、「生命の尊重」「規範意識」の育成や社会性・自主性を育むためのこころの教育や社会力育成は、学びの基礎力とも言える重要な要素です。今回いただいたご意見も参考にし、今後も更なる取組の推進に努めます。

4. むすびに

今回の取組を通じ、参加者の皆さんと本市の状況や課題を共有しその解決策をともに考えることができ、非常に大きな力を得ました。

直接お会いし、意見交換を交わしたからこそ、浮き彫りになった論点も数多くありました。空調整備では、快適な環境によって生じる課題への学校でのルールづくりや、夏季における児童生徒・教師の学びへの充実策、保護者や地域との関わりの強化などがあげられます。中学校給食では、食育の充実やアレルギーへの配慮、配膳・残さず食べるといった取組に対する生徒間での協力・責任感の醸成、食を通じた家庭とのコミュニケーションのあり方など、留意すべき点や工夫により善処できる点など、今後の導入に向けた具体的な検討にあたって議論すべきポイントを共有することができました。

今回いただいた意見を踏まえ、今後よりよい政策形成を進めてまいります。

以 上

【PTA】



【保護者（平日夜開催）】



【一般の方】



【学校長】

